

群馬県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 7 名

立候補者数 : 7 名



氏名 白田 滋

都道府県士会 群馬県

年齢 58

勤務先名称 群馬大学医学部保健学科



氏名 渡辺 真樹

都道府県士会 群馬県

年齢 45

勤務先名称 公立七日市病院

協会・士会役員歴

平成10年度より群馬県理学療法士会生涯学習部部長（平成14年度まで）
平成15年度より群馬県理学療法士協会学術局担当理事（現在に至る）
平成21年度 第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会副学会長
平成22年度より公益社団法人日本理学療法士協会代議員（現在に至る）
平成27年度 第50回日本理学療法学会大会学会企画運営局長

協会・士会役員歴

平成29年6月より群馬県理学療法士協会理事（事務局長）就任。

立候補の趣旨

日本理学療法士協会が中心となり、理学療法士の業務範囲の拡大や養成課程の充実、理学療法の学問的体系化など日本における理学療法は発展してまいりました。しかし、超高齢社会の到来に伴う疾病・障害構造や医療福祉制度の変化に対応して、国民の健康維持・増進における理学療法士の役割を確実にするためには、卒前教育・卒後教育の問題、理学療法士の社会的地位、理学療法効果に関する科学的根拠の蓄積など、喫緊に対応が必要な課題が山積みしております。そのような中で、個々の会員の意見をできるだけ協会の運営に反映することが求められます。そのため、代議員として、協会と会員個人間において必要な情報を迅速かつ的確に伝達することが重要な責務であると考えます。微力ではありますが、理学療法法の更なる発展のため、多くの問題に取り組ませて頂きますよう、会員の皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

立候補の趣旨

昨年、群馬県理学療法士協会の推薦を受け理事（事務局長）に就任しました。新人ではありますが、医療・介護の変革期を乗り越えていくためには、日本理学療法士協会への要望や情報収集を十分に行い、先を見据えた対応をしていく必要があると考えます。事務局長という立場でありますので、代議員となりその役割を果たせたらと考えます。



氏名 後閑 浩之

都道府県士会 群馬県

年齢 57

勤務先名称 日高病院



氏名 柴 ひとみ

都道府県士会 群馬県

年齢 50

勤務先名称 群馬医療福祉大学

協会・士会役員歴

協会・士会役員歴

平成21年4月～平成25年5月 群馬県理学療法士会 ブロック局中毛ブロック長
平成25年6月～現在に至る 群馬県理学療法士協会 理事（ブロック局）

立候補の趣旨

理学療法士を取り巻く環境もますます、厳しくなっております。
そんな中で、如何に国民にとって必要な職種になれるかの正念場です。
ぜひ、皆さんとともに頑張ってゆきたいと思ひます。

立候補の趣旨

超高齢化社会を迎える今、地域包括ケアシステムが整備されることと同時に主役となる生活者の人生や考え方を尊重し、その人らしく人生を楽しむ方法を見つけ出すことが重要となります。そのような中、群馬県理学療法士協会において地域で活躍する理学療法士の横の繋がりを強化する目的や顔の見える関係性の構築に携わってきました。
今後は、今まで以上に地域の力を結集し、多職種とともに課題解決に向けて取り組む必要性があると思ひます。そのためには個々人の理学療法士としての質を向上させることも必須と考へます。
微力ではありますが、日本理学療法士協会と群馬県理学療法士協会の橋渡しとして寄与できるよう代議員として立候補させて頂きます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 佐藤 みゆき

都道府県士会 群馬県

年齢 53

勤務先名称 老年病研究所附属病院

協会・士会役員歴

平成10年度～平成12年度 群馬県理学療法士会理事
平成13年度～平成14年度 群馬県理学療法士会副会長
平成26年度～日本理学療法士協会代議員

立候補の趣旨

日本理学療法士協会が職能団体として今後ますます社会に必要とされ、信頼される活動が行えるよう微力ではありますが、自分に出来ることは惜しみ無くやらせていただきたいと思います。



氏名 吉田 剛

都道府県士会 群馬県

年齢 57

勤務先名称 高崎健康福祉大学

協会・士会役員歴

1991年～現在：群馬県理学療法士協会学術担当理事
2013年～現在：群馬県理学療法士協会副会長兼任
1998年～現在：日本理学療法士協会代議員

立候補の趣旨

これまで約26年間、県協会の学術担当理事として、県学会、理学療法群馬の創刊、生涯学習システム対応などに尽力してまいりました。その過程で県の実情を協会本部に伝え、より会員の望むサービスの提供や理学療法士全体の質の向上に寄与する必要があると感じ、今まで代議員を務めて参りました。今また大きく生涯学習システムが変わろうとしている状況であり、今後の理学療法士の卒後教育体制のためにも、協会の意思決定機関である代議員総会に出席し、きちんと意見が述べられるように努めて参りたいと思いますのでよろしく願います。



氏名 茂木 啓介

都道府県士会 群馬県

年齢 43

勤務先名称 石井病院

協会・士会役員歴

2007年～2015年 群馬県理学療法士会 地域局介護保険部

立候補の趣旨

急性期・回復期・クリニック・特養・リハデイ・海外事業を展開する医療法人のリハビリ課長兼 診療技術部部長として、コメディカル全体の管理職に就いております。入職当初より、法人内におけるキャリアモデルになるべく、理学療法士としてだけでなく経営課題に取り組み、その一環として5年程前より新規事業および海外事業の立ち上げを行っております。

理学療法士の数は15万人を超え、我々を取り巻く環境は医療保険・介護保険といった保険診療に頼るだけでは、厳しくなることは目に見えており、働き方やニーズは多様化して参ります。一方で社会からは理学療法士として高度な専門性を求められています。多様化と専門性、相反するようになってますが、これからは両方の視点を持つ必要性があるのです。私はこれまで一般企業や外部機関との折衝において、理学療法士の専門性・必要性を強く訴えて参りました。しかし、理学療法士の重要性を語り、理解してもらうことは容易ではなく、苦慮した経験があります。ジェネラリストとしての感覚を持ちつつも、社会・他者の求める高度な専門性を提供し、多様なニーズに的確に答えていかなければなりません。言い換えれば、様々なフィールドで我々は必要とされており、必要な専門性を身に付けていければ活躍の場はあります。問題はどの様にその質を担保しつつ、多様なニーズに積極的に応えていくかだと考えます。

40歳以下理学療法士数が9割以上と若年化はご存知の通りで、その大半が、今後数十年以上理学療法士として働いていくわけです。自分たちの働く環境、組織のあるべき姿を他人事ではなく真剣に考えなければなりません。社会や行政、一般企業や他団体の方と多く接した経験や、海外事業の実績等を用いて少しでも、理学療法士協会及び後進の方々への政に寄与できればと考えております。多様な視点がある中、特に若い世代の意見を反映できればと立候補させていただいた次第です。